

伝わる文章とレイアウト研鑽

議会広報特別委員会

7月10日
全国町村議会
広報研修会に参加



広報研修会（東京）

第1分科会から第3分科会に分かれて広報クリニックが行われた。本町は第1分科会でグラフィックデザイナーの長岡光弘氏より、住民に伝わる文章、住民視線を誘導できるレイアウト、読みやすい紙面表現のレイアウト図面作成などを研鑽する。

◇寄居町ちいまち
編集方針は、日本一クリエイティブの高い議会だよりを目指し編集する。多くの町民登場を心掛ける。審査結果だけでなく、審査経過を伝える。見出しは大きく、写真で伝える。QRコードの掲載。インパクトのある記事と表紙写真、全てのページに住民の意見を掲

8月5日・6日 埼玉県寄居町、群馬県吉岡町・玉村町の議会広報を視察

インパクトのある 広報誌を学ぶ

載。毎号マンネリ化していないことなど、斬新な広報誌を学ぶ。



寄居町で研修

◇吉岡町よしかまち
読みやすく、分かりやすい、親しまれる編集とする。レイアウトは余裕のある紙面。記者ハンドブックを参考にする。編集方針や

6段組みの編集などは本町と似ている。しかし、5回の広報編集委員会の中で3回は、印刷会社の人が参加して、意見を聞き参考にしていた。



玉村町で研修

◇玉村町たまむらまち
写真の使い方、配置、文字の大小のバランスを心がける。難しいお役所言葉は使わない。早く伝えるため定例会翌月の第3月曜日の早期発行を目指していた。表紙の紙面からページ目の内容が一目で分かり、インパクトのある構成となっている。4段組み構成で写真や文字も大きく読みやすい編集となっていた。

3町とも、住民参加と広聴に力を入れ、印刷業者の意見を参考にしていた。議会から町に政策提言やQRコード掲載など参考とついでにきた。

ロケツーリズムレポート

官民あげてロケ誘致を強化

ロケツーリズムで幸せの町PR



ロケ地を探して（不動ヶ池公園）

幸田町では、平成30年度からタウンプロモーション事業に取り組んできた。この事業は、幸田町の魅力を発掘・再発見し積極的に発信していくことを目的に実施している。

地元工商业者の活性化のため、その一環として、今年度は、観光事業の推進で「ロケツーリズム」に取り組み幸田町の知名度アップや誘客を目的に、ドラマやロケ地誘致を進めている。事業費は、地域振興ロケーションサービス運営委託600万円、ロケツーリズム協議会負担金50万円、新メニューPR作成業務委託80万円などが計上され、ロケツーリズム関係では、1200万円。



ふるさと甲子園に参加（東京）

何も無い町がロケ地に？

プロの目で見て、感じる、匂う、景色、空気感がある。一番大事なのは受け入れ体制であり、ロケ隊を受け入れる準備。



各中学校がロケ地に？

ロケ誘致でどう幸せに？

- ・エキストラ、撮影ボランティアなどで、ゆかりのある映像づくりに直接参加する。
- ・町内工商业者の振興。
- ・住民参加型のまちづくりの推進があげられる。



長命うどんCafe



ダーシェンカ



ばーばらラーメン屋



こうたのらーめん屋さん



Cafe Va~va



萬珍軒



Cafeアシンメトリー



reigen coffee labo

商工会と町で開発した新メニュー「幸田角煮バーガー」は、町内8店舗で販売。8月24日、東京の秋葉原で行われた「第5回全国ふるさと甲子園」で販売とPR活動。

幸田角煮バーガーの定義

- ・夢やまご豚を100g使用する
- ・幸田の野菜を使用すること
- ・幸田町「まいくもん」創作委員会の認定を受けること

